

## テーマ:「国語・算数・理科・田舎課」開設のご提案

氏名:川口友子

### 1. 受講動機

※ 受講しようと思ったきっかけ

- ①「食の資源循環で地域を元気に」という過去に受けた講座の成果をを具体化してみたかった。
- ②次の世代に残したいものがあって、自分の言葉で発信してみたかった。

### 2. 研究する地域資源

※ どの地域資源を研究するか(理由も含めて)

何もない田舎という資源

理由 売るのは物ではなく田舎での「体験」。人の流れを作ることが目的。名物を作る以上にパイを大きくできると考え、これを旗印に知名度を上げる。またこの資源を次の世代に残すことに価値があると考えるから。

### 3. どのように価値を与えるか

何もない田舎を継続する価値を「体験」と「食」から考える。自分にはこの体験が必要だと思わせたい。

① 体験について 田舎＝自然に沿った暮らしができる場所ととらえ そのでの体験に価値を与える。(この体験の先にある感情体験に注視する)

大自然に包まれる、あこがれる 人が本来持っている本能を満足させる場所があり都会ではできない「大人が子どものころにしていた“自然の中で遊ぶ”体験」を再現できる場所としての価値は大きい。その時にしかできない体験は幸せな時

②「食」について 付加価値の高い有機野菜、昔からの発酵食品など命を支えるこの地域が引き継いできた「食」の提供。一緒に食べることで本当に豊かな暮らしとは何かを心に問いかける癒しの場所 休養・バカンスの場所としての価値を与える。子どももターゲットとして考える。

継続する方法 どんなに科学技術が進んでも自然は作れない。

静寂な空間・自然を守り活用する暮らし方を戦略として残していく。長岡田舎遺産としてとらえる。

### 4. 長岡のビジョン

※古民家を再生 長い休養を取れる場所として古民家を再生し活用する。それが沢山ある地域として発信。知名度をあげて行く。まちキャン子ども講座など 異業種を巻き込み、組み合わせることで遊びながら 学ぶ事も出来る地域として発信出来たらいい。「おもしろい」「遊び心」を中心に考える。国語算数理科田舎課の設置 つながることが重要 市役所・ホテル JAなどの施設と連携ができれば利用者の選択肢が増える。

「旅」は20兆円超えの需要がある巨大マーケット。日本人による国内旅行にも目を向け、資源に魅力を加えていく。名所旧跡は一度行けばリピートしないが「食」や「自然」は季節ごとに変化しました来なくなる。

### 5. 参考文献

- ・国を作るとい仕事 西水美恵子 ・日本が売られる 堤未果
- ・成功を引き寄せるマーケティング入門・森岡 毅 ・9割の社会問題はビジネスで解決できる。田口一成
- ・病気になるない自然な暮らし 本間真次郎

令和3年度まちなかキャンパス長岡大学院「地域資源研究コース」 成果発表

テーマ:「国語・算数・理科・田舎課」開設のご提案

氏名:川口友子

## 受講動機

過去にまちキャンで学んだ資源循環の講座内容が素晴らしく、さらに学びを進化させ・具体化してみたいと考えたから。  
また次世代に地域資源の良さを伝え残したいと強く思ったから。

## 研究する地域資源

### 何もない「田舎」という資源

職場の雑談の中で、近所に猿やイノシシが出る事、道に狸の死体が転がっていることもあると聞いた時  
そんな面白いところ「行ってみたい」と思い 東京の家族に見せてやりたいと考えたことがきっかけです。

従って売るのは「物」ではなくて「田舎での体験」、地域に人の流れを作ることが目的です。

何か「名物」を作る事以上にパイを大きくできると考えます。

提案した国語算数理科田舎の8文字を「旗印」にパワーワードを使ってまずは知名度をあげ、地元の人を巻きこんでいこうと考えました。

## 提案の3つの根拠

①どんな価値があるのか。②どんな方法で発信するのか ③具体的な方法について考えてみました。

### ①地域資源はどんな価値があるのか？

都会に暮らす人に「あ～自分にはこの体験が必要だわー」と思わせたい。

何もない田舎の価値について「体験」と「食」から考えてみました。

#### \* 体験について

田舎＝自然に沿った暮らしができる場所ととらえ、そこで体験する「事」に価値を与える。体験の先にある感情体験に注視しました。  
あ～風が気持ちいいとか、草の匂いがするといった大自然に包まれる、あこがれる 人が本来持っている本能を満足させる場所がある事。

都会ではできない「大人が子どものころにしていた“自然の中で遊ぶ体験”」を再現できる場所としての価値も大きいと考えました。

その時にしかできない体験は幸せな時の記憶となっていつまでも残ると考えます。

#### \* 「食」について

付加価値の高い有機野菜、昔からの発酵食品など命を支える事を目的としたこの地域の「食」の提供ができる事。

一緒に食べる事で本当の豊かな暮らしとは何かを心に問いかける癒しの場所 休養 バカンスの場所としての価値を与えます。

子どももターゲットとして考えています。

#### \* 継続する方法として

どんなに科学技術が進んでも自然を作ることはできません。

静寂な空間 自然を守り活用する暮らし方を戦略として残しておく。長岡田舎遺産の認定も提案いたします。

自分たちはこれで勝負するという強みを明確にして、この思いを地域でも共有することで更に発信力を強くなると考えます。  
候補地 越路の蛍 などいいと考えます。

## ② どんな方法で発進するのか。長岡のビジョン

古民家の再生について

長い休養をとれる場所として古民家を活用し、その施設が沢山ある地域として発信し知名度を上げていく事を提案します。

知財としての「まちキャン子ども講座」とのコラボ・「大人の夏休み」栃尾の織物・染め講座 「育てる・味わう有機農業」など 異業種を巻き込み組み合わせることで遊びながら 学ぶこともできる地域として発信できたら更に面白いと考えます。

「家族と遊ぶ」「大人も遊ぶ」おもしろいとか、遊び心を中心にプロデュースしていく事が必要と考えます。

## ③ 具体的な方法について

案内・告知の窓口として「国語算数理科田舎課」の設置。

「課」の設置なのでどこでも開設できます。

沢山の方々賛同して頂くと、地域の全体像としてここにしかない「形」が出来上がる気がいたします。

組み合わせが楽しめる田舎課の開設場所については、例えば市民共同、ホテルなどの一般企業 JA などが考えられる。

もし地元に住んでいる小学生が「課長」となって、国語算数田舎課をプレゼンしたら パワーポイント画像を参照ください。

1. ミッション⇒自然の中で遊びまわる様子の紹介
2. 課長の紹介⇒小5が学校で友達との会話をしている感じでまとめました。
3. 実績の紹介⇒秘密基地を作ることなど、同年代が興味を持ちそうな話題の提供をしています。
4. 開設のスキーム 楽しいループが出来上がります。
5. イメージとして山古志の山でおにぎりを食べる写真の紹介などが内容です。

「旅」は20兆円超えの需要がある巨大マーケットです。この資源を発信することで、日本人による国内国内旅行にも目を向けることが出来ます。名所旧跡は一度行けばリピートしないが「食」や「自然」は季節ごとに変化をしてまた来たくなる資源でもあると思います。

## 都市格

都市格を感じる地域になる。

この地域の農業は技術もそれにかかる思いも歴史も超一流の農業大国です。

長い時間をかけて出来上がったものをもっています。その力も使えたら更にいい結果になるのではないかと考えます。

## 結論

活用されていない地域の魅力を、自然に沿った暮らしが体験出来る「場所」と捉え、これを資源とし価値に変える提案をしてみました。

例えばここを訪ねることで、タイムスリップして「どこでもドア」を開けて違う世界感に遭遇した！と表現出来ると思います。

人も自然の一部として暮らす様子が残っていることは「強み」であり、この古い感じは武器となって本物の価値に変わると考えました。こんなのどかな「情報」を売ることで、人を「何もない田舎」に呼んで見たいと思います。

ただ良いものがあっても消費者の頭の中に無ければ何もないのと同じと考え、パワーワードを「旗印」にまずは知名度をあげたいと考えた提案です。子どもも一緒にチームとして考えます。

何かを作り出すことは大切ですが、今あるものを残すことの大切さもあります。

この風に吹かれながらおにぎりを「食べてみたい」という人が出てくれればうれしいです。

もしかして だったらこうしてみたら！と言ってくれる人に会えるかもしれないと思って提案をして見ました。

#### 参考文献

- ・国を作るという仕事 西水美恵子 ・日本が売られる 堤未果・成功を引き寄せるマーケティング 森岡 毅
- ・病気になる自然な暮らし 本間真次郎 ・9割の社会問題はビジネスで解決できる 田口一成

#### 参考資料

### 食事が大切で有機野菜にこだわる大きな理由。命を守る新しいビジョン

付加価値の高い物を作り農村が主役になる未来について考えてみました。

日本は2005年には3人に一人だったアレルギー人口が2011年には2人に一人に増えています。

発達障害は10人に一人、原因を特定するのは難しいかもしれません。親が子供に悪いものを食べさせたからといった問題ではなくて社会が作った現象です。

そんな中で有機野菜は自分の内なる力を高める事に着目しました。

世界の動きとしてロシアは有機農業大国を目指しています。

人体や家畜の健康 生物の多様性や環境に悪い影響を与えるリスクを懸念して 安全な食料の生産を目指しています。

日本にも方向を変えた人たちがいます。

例えば条例を作った今治市。地域でとれたものは安心して食べられる状況を作っています。

この事例は何を稼ぎ出すかより未来に何を残して行くかを大切にしていると思います、これは個人の利益を超えた課題です。

命を守り社会に価値をもたらす新しいビジョンに目を向けるきっかけになってくれたらと思います。

#### 感想

学び直しがたくてまちキャンに通いだして10年近くになると思います。

その間講師の先生方やスタッフの方々から沢山のご指導を頂き今日があると感謝をしています。

最初のころはただ新しい情報が手に入った事にワクワクしたことを覚えています。

ランダムに講座を選択して受講を重ねるうちに、地域の事がだんだん見えて来ました。

それが今回の「地域資源を見つける、価値に変える」研究コースにとっても役立ったと思います。

またご指導を頂いたディレクターの樺沢さん・唐澤さんには即戦力となるような「戦術」のアドバイスを何度も頂きました。

このアドバイスが研究をまとめるのに大きな力となりました。お二人には感謝しかありません。

まちキャンで学び、知識が身についたら仕事に使ってみる。そんな流れの見本になるような講座だったと感じています。

職場に戻り今回の成果発表がもたらしたものを伝えると、募集のパンフレットを改めて手に取ってくれました。

なんでも情報が手に入る時代に、長岡市こんなにありがたいキャンパスがあることを受講生の一人として伝えていきたいと思います。

# 「国語・算数・理科・田舎課」開設のご提案

令和3年度 まちなか大学院「地域資源研究コース」

川口友子

～「何もない田舎」は武器になる！～  
～これを「旗印」に知名度を上げていく～

# 田舎での体験に価値を与える

大自然に包まれる

自然の中で遊ぶ



みんなで一緒に食べる

地域の食文化を楽しむ

豊かな時間の共有

## 継続する方法

「長岡田舎遺産」  
を勝手に認定

# 長岡のビジョン

## 古民家再生

それがたくさんある地域として発信！  
知名度を上げていく

## 異業種とのコラボ

- まちキャン子ども講座
- 大人の夏休み 栃尾織物・染物講座
- 作る・味わう 有機野菜講座 など知財とのコラボ
  
- 「家族と遊ぶ」・「大人も遊ぶ」

# どこでも開設出来ます！

- 国語算数理科田舎課は「課」なので どこでも開設可能
- 例えば 市役所・民間企業(例えばホテル)JAなど

もしも「課長」が小学生だったら・・・

- ・ 地元に住んでいる  
小学生が田舎のすばらしさを説く  
という設定で提案をしたら

# 国語算数理科田舎課のご紹介

- 1.ミッション: 自然の中で遊びまわる様子を紹介する。
- 2.課長紹介 小学校5年生 男の子
  - 好きな事: ゲームとどんぐり拾い
  - 好きな色: 空色
  - 好きな食べ物: ありすぎて書ききれない
  - 近所の紹介: どこの家にも柿が標準装備

## 実績のご紹介

- 近所の友達と秘密基を作る約束を締結しました。  
まだ かあちゃんには言ってませんが……

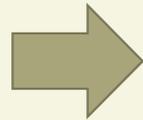
「僕」についてよく遊ぶ友達に聞いてみたアンケート結果

- ・ワクワクする……………多数
- ・多分人生のためになる……………少し
- ・まだわからない……………半分くらい

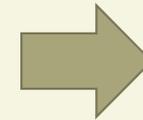
## 開設のご提案

- 国語算数理科田舎課の開設で  
ここを知らない友達と繋がってWin-Winになる。

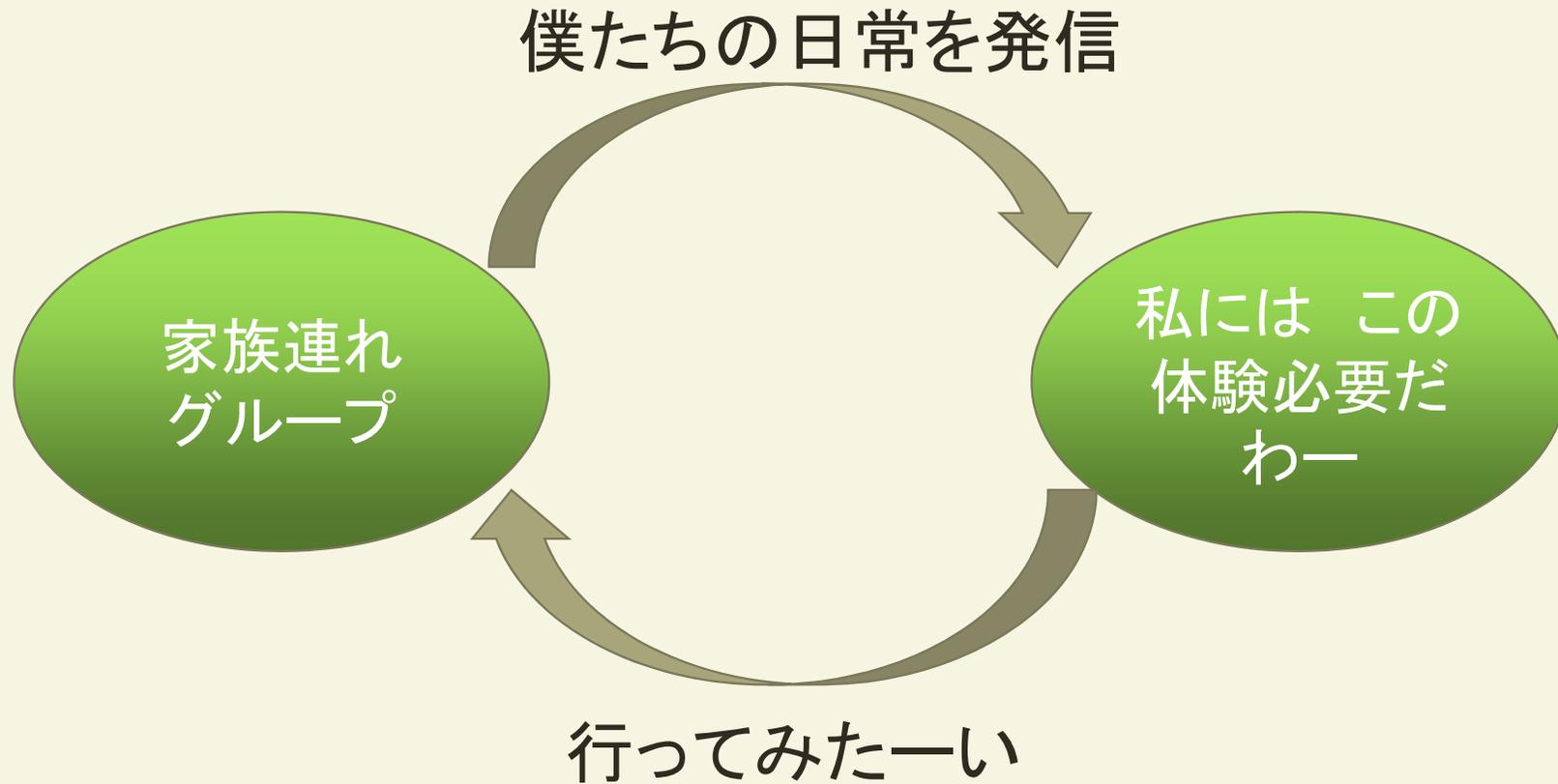
開設



ワクワク  
する事  
を発信



# 開設のスキーム



# 山でおにぎりを食べる



こんな感じのところもあります。

